（昭和七年六月十五日 第三種郵便物認可）　昭和十年七月十九日　JOBANSHINBUN【金曜日】　第二百八十八號（一）

日刊 小名濱

發行所 新聞社常務開
福島縣平町南町五九
發行人 伊藤藤次
福島縣小名濱町古港一
七月十八日夕刊
一ヶ月 三十錢
一部 二錢
廣告料 一行五十錢
場所指定 十錢增
日曜祭日翌日休刊

中ノ作港 一昨日工事終了

第三期工事は何時？

昭和七年度一期工事着手以來、武拾二萬五千圓を以てツブをめぐり各小學校共猛練習に餘念がない。二期工事まで經續されてた該工事が愈々十六日工事終了した。

該工事起工以來の盡力者、内田氏は勿論、本町の歡喜云ふまでもあるまい。更に繼續工事を要求して出縣した關係者の、本工事船付場の浚渫區域狹小なる理由と、船曳場の設備なき事の不利不便と、魚市場設置なき困難等の欠陷補足の回答どう響くでせうか第三期工事は何時になる事でせうか。

町民觀喜の内に此の嘆きありである。

今日小名濱 磐城座で 衛生講話 接客各組合に

今日午前十時、小名濱町磐城座に於て接客各組合員及關係者に對し福島より來町の署長、衛生課員より訓話あり一時間余で退座した。午後一時からは、小學校講堂に於て各關係者と座談の會を開き當町浴場衛生其の他に付いて懇談した。

勿來校に 第一區小學校敎員 庭球試合

優勝カップを廻りて來る廿一日勿來第二小學校に於て第一區敎員よりなる庭球試合が擧行される、常立場にあるけ二ども、之れ

勿來敎職員の精進

勿來第一小學校にては折笠校長の實地敎育、第二の鄕土を脊負ふ人物を養成するモットーの下に本年は田地

村の誇り 王川村小學校に 大講堂と奉安殿

八月中旬落成

王川村小學校では、講堂と奉安殿を新築すべく六月二十八日、上棟式を擧げて以來、工事着々と進行しつゝあつた。

大講堂の經費、實に六千圓にして大講堂の所有こそ此の村に此の小學校あり、此の小學校に此の講堂ありである。

生徒の雀躍は云ふに及ばず村民に至るまで、竣工遲しとまちぼけて居る。

磐城丸 魚業調査狀況

十八日午前七時無電昨夜七時碇泊今朝四時より調査始め北三十五度、四十五分東一五四度廿分水溫廿三度、色々良好群を見す、天候曇り南と西の風三氣壓七六四粍、氣溫廿六夜附近に他船一隻見ゆ。

近海大敷網不振 小名濱大敷網最高力

漁獲の殿堂と呼ばるゝ現在小名濱大敷網は高橋亘氏が經營にかゝる大敷網は漁云ふべきだらう。現在漁獲の王座を占むる大掛りな收入高約五〇〇圓を有し內漁撈法なれとも去來の經營百圓の費用と見積つても他者が之れに好成績をあげいない點を見るときは、如何に又經費の甚大なるかも知る事ができる。

近海大敷網は現在不好調の立場にあるけ二ども、之れ

香具師の親分や 借金の名人を檢擧

平署のダニ狩つづく

平署の第二次街の紳士狩りは十七日夜も引續き行はれ更に平町新川町香具師藤太一(三七)同白銀町無職酒井良吉(四七)の兩名を檢擧取調中である。

藤は平町地方の香具師の親分で詐欺、揆掏、無錢飮食、强喝を常習として小料理店や露店商人からダニの如く嫌はれてゐたもの、また酒井は高利貸しの仲介業を看板にして手數料をまき上げ或はデタラメな借用証を作つて人から金を借り未だ一度も返濟したことがないといふ借金の名人でその被害者二百名一萬圓に上つてゐる。

實父を傷つく 妻の事から口論

石城郡湯本町辰ノ口日傭業山田長政(三四)は十七日午前十一時ごろ自宅前で實父政二女和地よう子(三)は去る十五日午後四時ごろ隣家の五十嵐熊太郎方でガンガンの火にあたつてゐるうち着物に火が燃えうつり全身に大火傷を負ひ生命危篤

ガンガンの火で 幼兒大火傷

生命危篤

勿來町大日本炭礦坑夫信

松本德次郎氏 (26)

短所と長所 管見 (一)

士名方地

短所は中々見當たらないが松本氏は現小名濱消防組頭原作大佛次郎の水戸黃門の如く自ら印籠を振翳して惡を懲すと云ふ事などの忘れて吾井染四郎の花柳小菊の如き愛人名簿の如きも無く又經費の甚大なる社交は益々其の存在に光輝を增し富と名が平穩せず焉、の點の諸所に見受けらる、松本氏自身は平氣で御世辭の通り一遍と意にも介すまいが相手のものは社會的に立場のある人のあつた點であり言なれば信じもすれば期待もする其點に留意すれば人として萬點であらう。

濱だより

小名濱 魚市場調査

魚名	魚獲高	單價	割
カツヲ	一一二四二	八	五
バチ	一二七九	七〇	
カヂキ	八	一、一〇〇	
イワシ	一五〇	八〇	
赤色	一〇〇	六〇	
ソイ		四〇	
		八〇	
		五〇	
		七〇	

入港船數

鰹船	二二
ツキンボ船	
カンコ繩船	六
入港船名	

三重縣 幸昌丸
野島の東1/2北 六八〇浬
水溫 二十三度
サメ付 餌付良
漁獲(鰹 七一二八
バチ 七

三重縣 第三進取丸
東南東 一八〇里—
一二〇浬
水溫 二十二度五—
二十三度
サメ付 良
鰹 三〇〇七
バチ 八八

德島縣 第五行古丸
野島の東 七五〇〇
水溫 二十二度—
二十三度
サメ付 餌付良
餌不足
鰹 五〇〇〇

天氣豫報【十八日】

……小名濱測候所發表……

今晚 北東ノ風曇リ雨模
明日 〃 樣アリ

氣壓七百五十三ミリ二

常磐論評

平署では第二次街の紳士狩をやつた今度は名實共に稍々街の紳士狩として肯ける、然し此程度の人間は此處彼處にウヨ〳〵してゐる歩一歩を進めて眞の紳士階級にメスを入れてもらいた政治家方面に法曹界方面に實業家會社方面に其他法を翫勞する方面に而して社界を明朗に眞實と眞實の取引の出來る樣に昭和時代に生を享ける感謝を何人も持てる樣に當道者に期待する一層切なるものがある。

× × ×

縣戰も愈々迫つてくる候補者たらんとするものゝ、勝たんとする惱みと焦燥は今が一番つらい時である、決心の前は下腹にも力が入らず同士の整調、選擧民の趨行、身邊の同意、軍資金の捻出、政治家たらんものの人生行路も將に重荷を負つて遠き道を行くの感がある。

× × ×

選擧期日は刻々と迫る餘す處六十日巷間立候補確實と傳ふるもの平町の關內正一(政)蓮沼龍輔(政)野崎滿藏(民)萩原義雄(民)山崎登(政)の諸氏で他は今焦燥の最中である。

選擧肅正は何人も唱ふ、溺れるもの一木片にも縋る其處に根本的ヒントをつかむべきである、候補者の第一惱みは軍資金である、五千圓では足りぬ一萬圓の用意が必要だと云ふ、候補者が既に金は出さねばならぬもの選擧ブローカ、は四年に一回の幸運が來たのだ溺れる彼れの爲めに巧言以てウンと着服せよう、と腕をを叩いて待つてゐる、即ち味方が味方を喰ふ——國、縣議員三回やれば大底の財産家は土臺が搖ぎ出す、眞に選擧肅正の實を擧げんとすれば候補者の事務所に副事務長として警察官一名宛を任命する……仲間喰の連中もブローカも手も足も出ないだらう、而して候補者自身も買收などは更に考へないで正々堂々と言論文書戰で行く、選擧民とした處でロクな金も懷に入らないで寢喔の惡ひ思いをせずともすむ、同士の所謂幹部處も仲間喰をせず本當に盡せれば却てサッパリして働き甲斐も見えるもの、選擧肅正は期して待つ事が出來るであらう。

募集

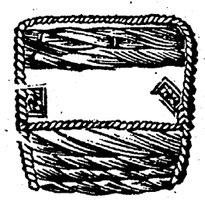
營業部　一名(小名濱)
年齡と學歷を問はず
眞劍味の人
右至急募集す
本人來談ありたし

日刊　常磐新聞社

銘酒は……

清世界

發賣元　清水屋本店
小名濱町電話六番



海水浴の御支度は
洋品洋服
高級化粧品
美身用具
金成屋洋品店
小名濱町中島通り
電話一五三番

◎工場擴張廣告◎
新工場增築設三十坪を加へ工場機械整備各位の御注文に對し技術改善は勿論廉價迅速に製作可仕候間倍舊の御愛顧を希上候

技術改善
製作品種目
高壓タービンポンプ
電動捲揚機械
シロツコ旋風機
コールクラッシャー
送炭用チエソコンベヤー
良品廉價

福島縣平町字堂前
合資會社　吉伴製作所
電話平二二五番

內科　小兒科
外科　耳鼻科
花柳病科
宮津醫院
小名濱町役場向
電話一四二番

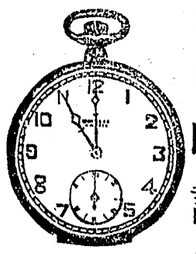
●ミツノ」の自轉車
●タジマ」の自轉車
●ゼツト號」自轉車
特約
自轉車並リヤカー修繕販賣
吉田屋輪店
小名濱町西町三九
◎流線形「ワイムス號」新製品着荷（一名盜難除け）
日掛け金拾錢也で
リヤカー。
自轉車。が買へる
外に月賦の便法もあり

江名町軌道會社向
高級賣藥販賣
布袋屋百貨店
◆胃腸專門藥◆
健胃
麻莨散
定價　三十錢　五十錢
効能　胸腹の痛み、さしこみ、胃弱、消化不良、嘔氣、曹囃、食過ぎ、過飲、胃擴大、惡心、胃加答兒、驅虫等に絶大なる特効あり

きゝめでうれる
りん病藥　妙淋丹
十日分三圓
販賣元　小名濱町中島本通り　電33番
シライシヤクホ

石版販活
捷敏確精
長瀨芳郎印刷所
磐城座入口
小名濱中島通り

眼科一般
小名濱眼科醫院
小名濱町

藥業報國販賣
ホシチエーントストアー
◆六月六日より
◆八月八日まで
ホシチヤコール錠
胃腸の掃除を最も迅速に、最も忠實に實行いたします
ホシ胃腸藥
食べた物、飲んだものを、最も正しく最も有効に處理いたします
ホシチヤコル錠の三十錢御買上對して
ホシ胃腸藥の二十錢進呈
同　五十錢　同五十錢進呈
同　一圓　同一圓進呈
同　二圓　同二圓進呈
同　五圓　同五圓進呈
（御買上の際御姓各御住所お知らせ置き願ます）
寶屋藥舖
小名濱町古港
電話三十九番

各國時計各種　附屬品　一式
指輪、眼鏡、蓄音器、ラヂオ　修理、正、迅
小名濱町中島通り
內山時計店
電話四十九番